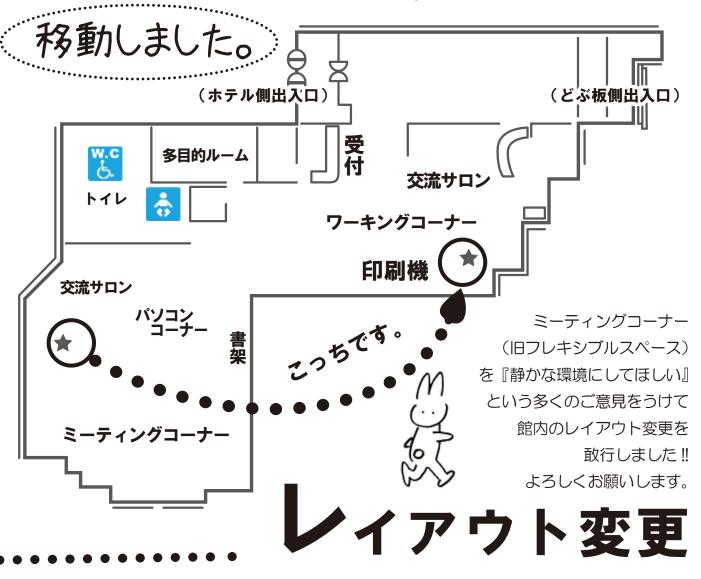


サポセジのED刷機が…!?







震災から地域の「つながり」を見つめなおす ~Not aloneは横須賀から~

de de

言笑から地域の「つながり」を見つめなおす

2012年3月18日(日)横須賀市総合福祉会館5階視聴覚研修室にておこなわれました。

参加者 59名

第1部は講師の東京都社会福祉協議会、加納佑一さんの講演を行いました。災害時の要援護者支援のあり方を、東日本大震災被災地の事例、その後日本各地で行われた取り組みを交えながらわかりやすくお話しいただきました。

第2部はハイランド5丁目自治会自主防災委員会の 事例紹介、NPO 法人ワーカーズ・コレクティブサポート横須賀の事例紹介を行いました。ハイランド5丁目自治会自主防災委員会の事例紹介は、委員会設立までの経緯、日ごろから「顔の見える関係」づくりの取り組みをご紹介いただきました。 NPO 法人ワーカーズ・コレクティブサポート横須賀の事例紹介は、デイサービスでの日頃の備え、災害時の対応をご紹介いただきました。

第3部は横須賀市災害ボランティアネットワーク、ハイランド5丁目自治会自主防災委員会、横須賀エフエム放送株式会社、NPO 法人ワーカーズ・コレクティブサポート横須賀、横須賀市市民部市民生活課によるパネルディスカッションを行いました。横須賀市の要援護者支援プラン、要援護者が地域とつながりを持つためのアイディア、災害時だけではなく普段からのつながりづくりを会場の皆さん全員でディスカッションを行いました。

第4部は参加者全員での名刺交換会を行いました。今回のテーマである、地域の「つながり」を見つめなおし、あちこちで真剣に話し合いが行われました。

~アンケートより~

- 防災意識の高い自治会があるのに驚いた。今後も皆で考える勉強会を続けてほしい
- 人とのつながりがいかに大切か、よくわかった。地域、町内会での組織が出来ていないので、これから作り上げていきたい。
- ・ハイランド5丁目自主防災委員会の防災アンケート実施が 参考になった。
- つながりを考える。地域で集まる機会を設けて、そこで何ができるか皆で考えたいと思う。
- ・色々な立場からの意見や言葉が聞けて良かったです。
- 名刺交換会で新しい出会いがあり刺激になった。



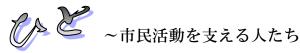
参加者全員での名刺交換会



当日の資料には情報いっぱい



パネルディスカッションでは活発な意見が交わされました



のたろんフェア景品交換、毎年子どもたちにやさ しい笑顔で対応される森直樹さんにお話を伺った。

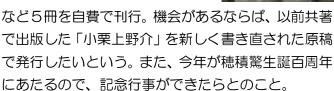
昭和 15 年東京生まれ、当時はまだ東京市といわ れていた頃で、昭和 19 年戦災を避けるため父の故 郷の佐世保へ疎開する。疎開と前後して父の健二さ んは暗号兵として招集され中国の戦線へ。直樹さん は、母、姉、弟と昭和20年6月28日の佐世保大 空襲で疎開先を焼け出され、埼玉県大里郡に転居し 終戦を迎えた。戦後、作家・脚本家であった父は一 年の抑留生活のあと復員、品川にあった師の長谷川 伸先生の家に下宿していた。 昭和 23 年に横須賀に 居を移し数年ぶりに家族一緒に暮らすようになる。

少年時代から、父の仕事を手伝って、出版社や放 送局へ原稿を届けたり清書したりしていた。昭和31 年、父の健二さんはペンネーム穂積驚(ほづみ みは る) で第36回直木賞を受賞。当時の受賞記念パー ティーは、受賞者自身の手で行われていて、著名人 の集まる大パーティーを準備段階から家族で手伝っ た。高校卒業後は、東京の速記の学校や英文タイプ の学校に通い、技術を生かし横浜の貿易会社に就職。 昭和51年に結婚して、金沢区に移った。

昭和55年に父が亡くなる。その後、未刊行だと

のたろんフェア実行委員会 運営ボランティア 森 直樹さん

>った『猫間中納言』(1986年) や「穂積驚の散歩」(2006年)



サポセンとの出会いは、10年ほど前、横須賀の家 に戻られてから、小学校のときの友達に誘われ「よこ すかまちづくり市民の会」に参加。以後、毎年のたろ んフェア運営ボランティアとして参加するなど、地道 にサポセンを支えている。趣味は、父から引き継いだ 「マッチ集め」「郵便局めぐり」など、見たくなるよ うなコレクションが多い。

のたろんフェアのスタンプラリーで使われるシー ルは、多くを森さんが作成。「スタンプを押すのが早 いのは、昔、本は著者が一冊一冊に検印を押していて、 父のを手伝っていたからだよ。」市民活動は、思い立 って始めるのが普通だけれど、森さんのサポセンとの つながりは自然で、最初から日常の一部だったように 思える。森さんの持っている「文化」の一面が、私た ちには市民活動に見えるのかも知れない。遠い未来の 成熟した市民活動は、こういうものではないだろう か、と思ったひとときだった。 (はこざき)



alone not alo

朗読劇「ハッピーバースティ」

「ハッピーバースディ」は母親に虐待を受け、心に傷を負った少女の立ち直りと家族の葛藤、学校でのい じめを見つめるベストセラー小説です。原作者の青木和雄さん、吉富多美さんは、声優の野村道子さん、内 海賢二さんらとこの作品を朗読劇として舞台化して、県内を中心に一年に一度のペースで公演を行ってきま した。今回、横須賀でもこの公演を実現させようと、YMCAやNPOが発起人となり、横須賀市の行政や 教育、福祉関係者に呼びかけて実行委員会を結成することになりました。

☆学習会大盛況!!

実行委員会にさきがけて、原作者の吉富多美さんをお迎えして学習会を開きました。 実行委員会に名前を連ねたNPO、行政機関、教育、福祉機関の方々が続々と集まり、 50名を越える参加者で会場は熱気に包まれました。参加者の皆さんは、日頃から子 育てに関わる活動をされていて、朗読劇のテーマである「児童虐待」や「いじめ」の 問題に大変関心が高く、吉富さんのお話や、横須賀市の児童虐待防止の取り組みの話、 朗読劇開催の経緯などの話に熱心に耳を傾けていました。また、第二部で行われた交 流会では、いくつかのテーブルに分かれてお互いの活動について紹介しあい、活発に 意見交換をしました。時間を越えても話はつきず、皆さんの熱意を感じました。

11月の公演の成功に向けて、期待が高まります。





さあ、新しいステージへ! ~団塊の世代への市民活動のススメ~



市民活動への参加を横須賀市内在住の団塊世代の方々を中心に呼びかける交流会。

参加市民活動団体:10団体(25名)参加者: 21 &

2012年3月25日(日)

◎横須賀市立市民活動サポートセンター

年度末最後の日曜日に、団塊の世代向け市民活動団体との交流会をおこないました。

当日は天候にも恵まれ、市民活動を始めようという熱い気持ちを持った多くの方々に参加していただき、出展団体と深く交流をしていました。

参加者の中には、興味のあった活動に参加の意向を示した方も何名かいらっしゃいました。今後も継続して開催していきたいと思います。





こハった。偶然とはい私の背を押すように、低たその時、大三人 め、夕食の支度を気にしながら腰が上かな春の日の午後だった スなら、それは、のカラスが、あの ることはなかった。このカラスだけは、 ラスは頭脳 いあのカラスに、再び開花は送れて今冬は特に 雨水は過ぎ3月を間近にして、となった。 -聞いたのが最後だった。初対面以来その後2、3回、家の近くで鳴くの 暖かな春が待ち遠しい(田中) 行するカラスを見送っ このカラスも頭がよく、あのは頭脳明晰であると聞いたことらも、どこか親しみを感じた。 0) 伸びすぎた雑草に辟易してい の不思議なカラスに戸惑いはよ、はよ」が重なった。偶然とはいえ私の気持ちと あのときに出会ったカラ 草取りをしていた暖 そして今日 心の隅から消え去 「はよ、 低飛行で横切 「はよ、 はよ」と

ŧ





4

☆用途いろいろ☆





横須賀市民活動サポートセンターの「パソコンルーム」が『多目的ルーム』になりました。名称のごとく、以前まではパソコンの講習だけに使われていた部屋が、"その他の幅広い多目的な活動に使える部屋"となる予定です。はやく全貌が知りたーい!

楽しみですね!

のたろんがお送りするサポセンのこぼれ話!

- ◆サポセンブログ(カメラ付き携帯で読み取れます)
- ◆Eメール info@yokosuka-supportcenter.jp
- ◆サポートセンターのホームページ 「のたろん Web」は"のたろん"で検索♪

のたろん

給索

情報誌「のたろん」春号(通巻50号) 2012年4月1日 発行 横須賀市立市民活動サポートセンター

編集 指定管理者 特定非営利活動法人 YMCAコミュニティサポート 横須賀市本町 3-27(京浜急行汐入駅徒歩 1 分)

TEL 046-828-3130

FAX 046-828-3132

市民活動サポートセンターは、市民活動、ボランティア活動の打合せや作業、情報収集を行なう施設です。ご利用の際は受付にて利用表のご記入をお願いします。